

平成 27 年度

川崎市視覚障害者情報文化
センター事業概要

川崎市視覚障害者情報文化センター

目 次

1	川崎市視覚障害者情報文化センターの概要.....	- 3 -
	(1) 設置及び事業者.....	- 3 -
	(2) 所在地.....	- 3 -
	(3) 沿革.....	- 3 -
	(4) 施設規模.....	- 3 -
	(5) 根拠法令等.....	- 3 -
	(6) 事業の概要.....	- 4 -
	(7) 組織.....	- 4 -
2	川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について.....	- 4 -
	(1) 図書館資料の維持管理.....	- 4 -
	(2) 図書館資料等の貸出し.....	- 4 -
	(3) 点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等.....	- 4 -
	(4) 他の点字図書館との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借... - 4 -	- 4 -
	(5) サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード... - 5 -	- 5 -
	(6) テキスト DAISY 資料の製作とアップロード.....	- 5 -
	(7) 利用者登録.....	- 5 -
	(8) 「ぶっくがいど」等の発行.....	- 5 -
	(9) プライベートサービスの実施.....	- 5 -
	(10) 点訳者及び音訳者の養成講座の実施.....	- 5 -
	(11) 点訳者及び音訳者の育成・指導等.....	- 6 -
	(12) 視覚障害者訓練事業.....	- 6 -
	(13) 便利グッズの展示と販売.....	- 6 -
	(14) 関係機関・団体との連絡調整.....	- 6 -
	(15) 篤志家報告.....	- 7 -
	(16) 市内のボランティア団体との連絡調整.....	- 7 -
	(17) その他啓発等の事業.....	- 8 -
3	平成 27 年度事業のあらまし.....	- 8 -
	(1) 図書館サービスの状況.....	- 8 -
	(2) 利用者等の状況.....	- 12 -
	(3) プライベートサービスの実施状況.....	- 18 -
	(4) 「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）.....	- 18 -
	(5) 図書館資料の受入状況.....	- 18 -

(6) 「アイ eye センターだより」の発行状況 (個人、団体).....	- 19 -
(7) 点訳者の新年会・連絡会及び点訳相談会・校正者会議の開催..	- 19 -
(8) 音訳者の連絡会、校正者会議等の開催.....	- 20 -
(9) 音訳者スキルアップ研修会の実施.....	- 20 -
(10) 表彰.....	- 20 -
(11) アイ eye センターまつりの実施について.....	- 21 -
(12) 読書会・講演会の開催.....	- 22 -
(13) 出前センターの開催.....	- 22 -
(14) 図書整理を行いました.....	- 23 -
(15) 「音声ガイド制作者養成講習会」を開始しました.....	- 23 -
(16) 視覚障害者訓練事業の実施状況.....	- 23 -
ア 訓練申請と利用契約の状況.....	- 24 -
イ 訓練生の状況.....	- 25 -
ウ 訓練の年度別の状況.....	- 28 -
エ 訓練の内訳.....	- 29 -
オ 各訓練の状況.....	- 29 -
カ 相談業務等の状況.....	- 30 -
キ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会.....	- 32 -
ク 訓練生懇親会.....	- 32 -
ケ パソコンサポートボランティア研修会.....	- 33 -
コ 講師派遣の状況.....	- 33 -
サ 研修への参加状況.....	- 34 -
シ 関係機関との連携.....	- 37 -
ス 展示会などへの参加状況.....	- 38 -
<用具について>.....	- 39 -
<啓発普及について>.....	- 40 -
<防災・減災対策の推進について>.....	- 40 -
<イベントについて>.....	- 40 -
<関係団体との協力について>.....	- 40 -
指定管理者制度活用事業 評価シート.....	- 41 -

1 川崎市視覚障害者情報文化センターの概要

(1) 設置及び事業者

川崎市

(2) 所在地

〒210-0026 川崎市川崎区堤根 34-15 ふれあいプラザかわさき 3階

(3) 沿革

昭和 37 年 11 月 川崎市社会福祉会館内に「盲人図書室」として開設

昭和 43 年 4 月 厚生省から「点字図書館」としての指定を受ける。

昭和 49 年 7 月 「川崎市盲人図書館」と名称を変更。

平成 26 年 4 月 現在地に移転、指定管理先を「社会福祉法人日本点字図書館」とし「川崎市視覚障害者情報文化センター」と名称を変更。

(4) 施設規模

単位m²

多目的室 A 1・A 2	68.6	スタッフルーム	49.4
多目的室 B	39.0	生活情報・用具展示ルーム	30.0
対面朗読室	11.2	パソコン訓練室	8.9
前室	6.5	相談室	8.9
録音室 A	4.7	サービスルーム	120.9
録音室 B	3.7	閲覧室	7.6
交流室	14.4	ネットワーク室	12.4
給湯室	3.4	プリント室	12.4
男子更衣室	3.8	廊下	62.2
女子更衣室	3.6	パイプスペース	5.5
みんなのトイレ	3.8		
合 計			476.9

(5) 根拠法令等

- ・身体障害者福祉法第 34 条「視聴覚障害者情報提供施設」
- ・障害者総合支援法第 77 条「市町村の地域生活支援事業」
- ・身体障害者社会参加支援施設の設備及び運営に関する基準（省令）
- ・川崎市視覚障害者情報文化センター条例

(6) 事業の概要

本市の区域内に居住・通勤・通学する視覚障害者の更生及び援護育成を図るため、次の事業を行う。

- ・点字図書及び録音図書の閲覧及び貸出しに関すること。
- ・読書用器材の貸出しに関すること。
- ・点訳者及び音訳者の育成指導に関すること。
- ・点字物及び録音物の発行に関すること。
- ・その他、視覚障害者の更生及び援護育成を図るために必要な業務に関すること。

(7) 組織

川崎市視覚障害者情報文化センター

- ・センター長 1 名
- ・利用者サービスグループ・利用者支援グループ・総務グループ 計 10 名

2 川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について

(1) 図書館資料の維持管理

日々の維持管理に加えて、図書整理期間を設けて修繕、除籍などを実施しています。

(2) 図書館資料等の貸出し

貸出しは、来館、電話、手紙（点字によるものを含みます）、FAX、電子メール、視覚障害者情報総合ネットワークサピエ（以下「サピエ」という）を利用したのオンラインリクエストの方法により受け付けています。

発送による貸出しは、原則として、1日1回行っています。また、希望者には、雑誌（点字、CD及びテープ）の定期貸出しも行っています。

なお、来館及び電話受付は、休館日の月曜日をのぞき、火曜日から日曜日までの午前9時から午後5時までです。

(3) 点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等

全国視覚障害者情報提供施設協会の製作基準に準拠し製作しています。また、ボランティアグループ等からの寄贈図書の受入れも行っています。なお、製作図書の選定は、利用状況等を勘案し、選書会議にて決定しています。

(4) 他の点字図書館との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借

主にサピエを通じて、全国規模での相互貸借を行い、他の点字図書館等が所蔵する点字図書、録音図書、雑誌等を借り受けて、当センター利用者へ貸し出すサービスを行っています。

(5) サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード

川崎市視覚障害者情報文化センターの利用者へのサービスだけでなく、全国の視覚障害者へのサービスにも貢献できるように、蔵書情報や蔵書データをアップロードしています。

(6) テキスト DAISY 資料の製作とアップロード

著作権法の改正に基づき、新たなコンテンツであるテキスト DAISY の製作とサピエへのアップロードを行っています。

(7) 利用者登録

氏名、住所、生年月日、広報誌の希望の有無などを電話等で聞き取りのうえ、受け付け、登録しています。

また、利用登録できる方は、川崎市在住、在勤、在学の方で、視覚による表現の認識に障害のある方です。

なお、2年に一度、登録情報の更新を行っています。

(8) 「ぶっくがいど」等の発行

新刊情報のほか、視覚障害者へのタイムリーな情報を掲載し、墨字版、点字版、CD版を作成し、偶数月初旬に発行しています。同じく月2回メールマガジン『アイ eye』の発刊と、奇数月初旬には「アイ eye センターだより」墨字版、点字版を作成し発行しています。

(9) プライベートサービスの実施

個人的なニーズに応えるため、次のようなサービスを提供しています。

No.	サービス名称	内容
①	点訳	蔵書にない図書の点訳をします。
②	点字複写	点字データを打ち出します。
③	録音朗読	電気製品の取扱い説明書などをCD化します。
④	対面朗読	蔵書にない図書を読み上げます。
⑤	読書用機材貸出し	CD図書再生機の貸出しを行います。

※「読書用機材貸出し」について

川崎市視覚障害者情報文化センターの所蔵のCD図書を聞くためには、専用の機器が必要ですが、購入までの試用として、1ヶ月を目安に貸し出しています。

(10) 点訳者及び音訳者の養成講座の実施

隔年で点訳者及び音訳者の養成講座を実施しています。

(1 1) 点訳者及び音訳者の育成・指導等

技術向上のための研修や研究会を実施・支援しています。

また、点訳者及び音訳者の管理とともに活動実績の管理を行い、各種表彰の根拠資料として利用します。

さらに、点訳者及び音訳者の技術向上と交流を目的として、新年会、連絡会、校正者会議等を実施しています。

(1 2) 視覚障害者訓練事業

障害者ケアマネジメントの手法による訓練等を行っています。

ア 訓練

・コミュニケーション訓練

点字、ハンドライティング及び音声読み上げソフトを利用したパソコン操作

・歩行訓練

手引き、屋内歩行及び白杖による歩行

・日常生活訓練

調理、裁縫・編物、日常身辺処理

イ 相談

視覚障害に関する各種相談（訓練、各種用具・機器、進路等）に応じます。

ウ 実施方法

訓練は、訪問又は当館への通所のいずれかの方法で行います。

相談は、電話の場合は随時受け付け、来館の場合は予約が必要です。

なお、来館及び電話受付は、火曜から日曜日の午前 9 時から午後 5 時までです。

(1 3) 便利グッズの展示と販売

点字器や白杖はもちろん、調理器具、拡大読書器など、日常生活に便利な商品を展示してあり、直接手にとって、試してからご購入いただけます。白杖など各種修理も承ります。また、日常生活用具の給付制度を利用したい方には制度及び申請方法の説明も行っています。生活に便利な情報も積極的に発信しています。

(1 4) 関係機関・団体との連絡調整

ア 市内関係機関

- ・市立図書館

イ 外部加盟組織

- ・全国視覚障害者情報提供施設協会
- ・日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会
- ・関東地区点字図書館協議会
- ・神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会
- ・神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会

(15) 篤志家報告

ボランティア団体などから寄贈された録音図書・点字図書の内容を報告書（寄贈年月日、寄贈された図書等、寄贈した団体名等及びその住所を記載）としてまとめ、川崎市健康福祉局長へ提出しています。

(16) 市内のボランティア団体との連絡調整

ア 川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）

障害者と共に生き、共に歩む地域活動を理念としています。川崎市内の視覚障害者にかかわっている録音、点訳、拡大写本、パソコンサポートなどのボランティアグループが連携し、障害者のニーズに迅速かつ的確に応えています。

なお、参加グループは、次のとおりです。

活動分野	グループ名
録音グループ	水車の会 さんざし ひいらぎ かざぐるま
点訳グループ	芽の字会 スターシックス ぶれいる アンダンテ 里の芽会 木の芽会
拡大写本グループ	ルーペの会 とんぼ ぺんパルの会
CD 図書グループ	DAISY 川崎
パソコンサポートグループ	川崎パソコンユーザー会 あさお PC クラブ 川崎パソコンクラブ (KPC)

イ 川崎市視覚障害者情報文化センターを活動拠点としているグループの紹介

・水車の会

「情報ポケット水車」及び「音のしおり」を月刊で発行しており、センターで発送作業を行っています。また、録音図書の寄贈等もあります。

・デイジー川崎

CD 図書の製作委託契約を締結しています。

・川崎パソコンユーザー会

ユーザー（視覚障害をお持ちの方）とサポーター（パソコンサポートボランティア）が情報バリアフリーをめざし、パソコン操作の勉強をしています。

(17) その他啓発等の事業

読書会（年2回）、各種コンサートの開催、音声解説付きDVD映画体験上映会の毎月開催、視覚障害者と支援者のための防災イベントの開催、アイ eye センターまっりの開催等。これらの催しを行い、センター事業の理解と普及に努めています。また、本事業概要を毎年度作成し、7月頃を目処に関係部署・団体へ送付しています。

3 平成27年度事業のあらまし

<概要>

平成27年度は開館から2年目を迎え、利用者が親しめる施設として事業に取り組んできました。図書の製作、貸出しも計画を上回る利用を延ばすことができ、訓練事業についても平成26年度からの訓練継続者を含め、歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を行いました。また、訪問指導や来所指導といった短期間の訓練指導も実施回数の増加が見られました。7月には視覚障害者に関する業務に従事している川崎市職員の資質向上を図るため、視覚障害者訓練事業説明会を開催し、昨年度の訓練実績について説明するほか、視覚障害者が利用する各種用具類を紹介し、実際に操作体験もしてもらいました。コミュニケーション訓練、歩行訓練、日常生活訓練と、日常生活用具の紹介や各訓練で使用する機器類の操作体験などを、訓練担当者が中心に行ないました。

新たな事業としては、初心者を対象とした映画の音声ガイド制作者養成講座を全8回で行いました。音声ガイドの基本から説明し、実際に1本の映画の音声ガイドを作りました。それと並行して、外部団体の協力を得て15本の音声ガイドを制作し公開しています。また、8月には宮前区役所のロビーをお借りし図書の貸出しや訓練の説明、日常生活に必要な便利グッズの紹介などセンターの事業を1日ご紹介する「出前センター」を行いました。

他にも、5月にチターとフルート、チェロのトリオの演奏による「かわさき春のコンサート」、12月には和太鼓とホルンの演奏「かわさき冬のコンサート」を開催し、利用者、支援者、地域の方々に2階ホールが満員になる盛況ぶりでした。

珍しいところでは、国立国会図書館が保存する戦前のSP版レコードの歴史的音源を定期公開し、参加した方に楽しんでいただく「れきおんクラブ」も行いました。また、情報発信の強化として、年度途中からメールマガジンや新たな広報誌の発行を行ない、地域情報を積極的に紹介しました。

今後も、視覚障害者に対する総合的な情報拠点としての役割を強く自覚し、さらに積極的な情報発信を進めていきます。

(1) 図書館サービスの状況

<図書の貸出し・製作・養成状況について>

<図書貸出しについて>

2015年4月から16年3月の貸出し状況は次の通りです。登録利用者数は382名、登録利用団体は249施設。貸出し数は、個人・団体合わせて、点字図書250タ

イトル、録音図書は 11,983 タイトルでした。点字雑誌は年間 319 タイトル、録音雑誌はテープ雑誌の貸出しが年間 75 タイトル、CD雑誌を年間 4,851 タイトル貸し出しました。この中で他の図書館からの相互貸借による貸し出しは、点字資料 42 タイトル、CD資料 9,061 タイトルを提供しました。また、利用者ニーズを尊重した図書選定を行い、前年度からの製作分も含めて点字図書は 67(自館 46・寄贈 21) タイトル、プライベートサービス 39 タイトル製作しました。

録音図書も前年度からの製作分も含めて 101 タイトル、プライベートサービス 6 タイトル、テキストデージー図書 2 タイトルを製作しました。あたらしくシネマデージーの製作を開始し、今年度は 17 タイトルを製作することができました。あらたにダウンロードサービスが好調で 916 タイトルのダウンロードを行いました。録音図書の 11,983 タイトルと合わせると 12,899 タイトルとなります。

■デージーでは川崎製作の小説がサピエ上位にランクインしました。いずれも人気作家です。禁断の魔術 東野圭吾著 朝顔の日 高橋弘希著 奇跡の人 原田マハ著 小説だけでなく「人類進化 700 万年の物語 私たちだけがなぜ生き残れたのか」なども製作。利用者からお礼状が届きました。点字の川崎ダウンロード 1 位は「親友が恋のライバル!？」、シリーズ 7 作目が 36 人からダウンロードされました。全体的にはマイナンバーに関する本が秋からのロングランを続けています。

平成 27 年 10 月時点

ア 蔵書

・分類別蔵書数

分類	媒体		点字図書		CD図書		マルチメディアデージー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
0 総記	46	210	100	100	0	0	0	0
1 哲学	94	319	207	207	1	1	1	1
2 歴史	115	554	430	430	0	0	0	0
3 社会科学	281	991	460	461	6	6	6	6
4 自然科学	100	358	457	457	0	0	0	0
5 技術	58	183	141	141	0	0	0	0
6 産業	36	122	105	105	0	0	0	0
7 芸術	66	234	469	470	8	8	8	8
8 言語	16	47	38	38	1	1	1	1
9 文学	820	2839	2364	2383	0	0	0	0
E 絵本・その他	6	12	11	11	1	1	1	1
合計	1638	5869	4782	4803	17	17	17	17

・受入種別蔵書数

媒体 受入	点字図書		CD図書		マルチメディアデージー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	1416	5297	1449	1450	0	0
購入	0	0	8	8	0	0
寄贈	39	81	2632	2649	0	0
厚労省委託	183	491	432	435	17	17
他館複製	0	0	230	230	0	0
その他	0	0	31	31	0	0
合計	1638	5869	4782	4803	17	17

・平成 27 年度除籍蔵書数

点字図書		テープ図書		CD図書	
タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0	0	0	0	0	0

イ 貸出しを行っている雑誌

・点字雑誌 7 誌

雑誌名	発行間隔
コメディカルの友	〔月刊〕
経絡治療	〔月刊〕
東洋療法	〔月刊〕
鍼灸柔整新聞	〔月刊〕
鍼灸の世界	〔月刊〕
点字ジャーナル	〔月刊〕
点字毎日	〔週刊〕

・CD雑誌 56誌

雑誌名	発行間隔
NHK きょうの健康	〔月刊〕
NHK 趣味の園芸	〔月刊〕
NHK 俳句	〔月刊〕
PHP	〔月刊〕
朝日新聞天声人語	〔月刊〕
アベ・マリア	〔月刊〕
医道の日本	〔月刊〕
英語よもやま通信	〔月刊〕
栄養と料理	〔月刊〕
おしゃれなひととき	〔季刊〕
オール読物	〔月刊〕
オレンジページ	〔月2回〕
近刊録音図書情報	〔月刊〕
暮らしの手帖	〔隔月刊〕
声の広報「厚生」	〔隔月刊〕
声の食生活情報	〔月刊〕
声のナショナルジオグラフィック 日本版	〔月刊〕
サンデー毎日	〔週刊〕
社説5誌	〔旬刊〕
週刊朝日	〔週刊〕
週刊現代	〔週刊〕
週刊新潮	〔週刊〕
週刊文春	〔週刊〕
週刊ポスト	〔月刊〕
ジュニアエラ	〔月刊〕
小説現代	〔月刊〕
小説新潮	〔月刊〕
小説すばる	〔月刊〕
女性自身	〔月2回〕
ステラ	〔週刊〕
世界	〔月刊〕
選択	〔月刊〕
壮快	〔月刊〕
総合リハビリテーション	〔月刊〕

点字毎日	〔隔週〕
東京くらしねっと	〔隔月刊〕
東洋経済	〔月刊〕
日経サイエンス	〔月刊〕
日経パソコン	〔月刊〕
日経ヘルス	〔月刊〕
日経マネー	〔月刊〕
にってんデイジーマガジン	〔月刊〕
ニューズウィーク	〔週刊〕
ニュートン	〔月刊〕
百万人の福音	〔月刊〕
婦人公論	〔月2回〕
文学界	〔月刊〕
文芸春秋	〔月刊〕
文藝（河出書房）	〔季刊〕
ホームライフ	〔月刊〕
みんぱく	〔月刊〕
やまびこ通信	〔月刊〕
ラジオ深夜便	〔月刊〕
旅行読売	〔月刊〕
歴史読本	〔月刊〕
ロバさんの万華鏡	〔季刊〕

・テープ雑誌 5誌

暮らしの手帖	〔月刊〕
糖尿病ライフさかえ	〔月刊〕
ニュートン	〔月刊〕
婦人公論	〔月2回〕
ラジオ深夜便	〔月刊〕

(2) 利用者等の状況

ア 利用者及び市内の視覚障害者の状況

(ア) 利用者数

27年度の新規登録	27年度の登録抹消	登録者
30	1	382

(イ) 障害等級別利用者数

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	未所持
人数	200	128	12	3	14	1	24※

※障害者手帳は持っていませんが、視覚表現のままでは、読書が困難な方です。

(ウ) 年齢別利用者数

年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
人数	3	7	12	46	47	96	169	2

イ 資料の貸出状況

(ア) 分類別資料貸出 (個人)

分類	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	0	0	0	0	85	85
1 哲学	3	6	4	15	141	141
2 歴史	3	17	0	0	225	225
3 社会科学	5	16	2	10	245	245
4 自然科学	6	9	2	7	213	213
5 技術	6	6	4	19	94	94
6 産業	1	2	2	6	50	50
7 芸術	5	8	0	0	553	559
8 言語	0	0	0	0	39	39
9 文学	49	141	13	51	8096	8104
その他	2	2	0	0	20	23
小計	80	207	27	108	9761	9778
雑誌	319	319	75	285	4750	4750
合計	399	526	102	393	14511	14528

(イ) 分類別資料貸出 (団体)

分類	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	1	2	0	0	27	27
1 哲学	5	15	0	0	68	68
2 歴史	12	43	0	0	145	145
3 社会科学	9	43	0	0	120	120
4 自然科学	11	31	0	0	59	59
5 技術	5	15	0	0	35	35
6 産業	1	5	0	0	16	16
7 芸術	7	16	0	0	88	96
8 言語	5	8	0	0	14	14
9 文学	114	345	0	0	1623	1623
その他	0	0	0	0	0	0
小計	170	523	0	0	2195	2203
雑誌	0	0	0	0	101	101
合計	170	523	0	0	2296	2304

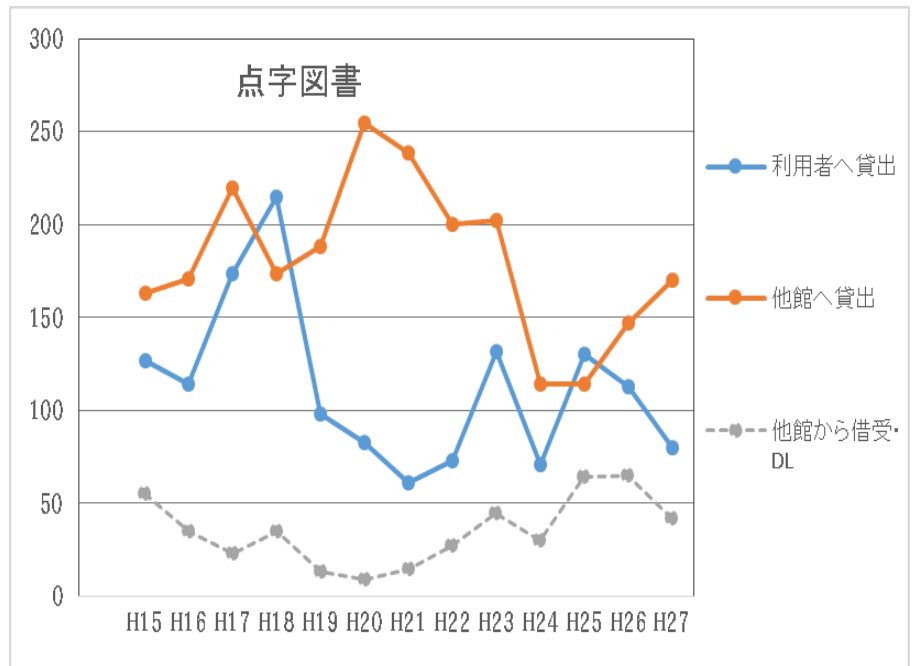
(ウ) 資料のダウンロード状況

月別資料

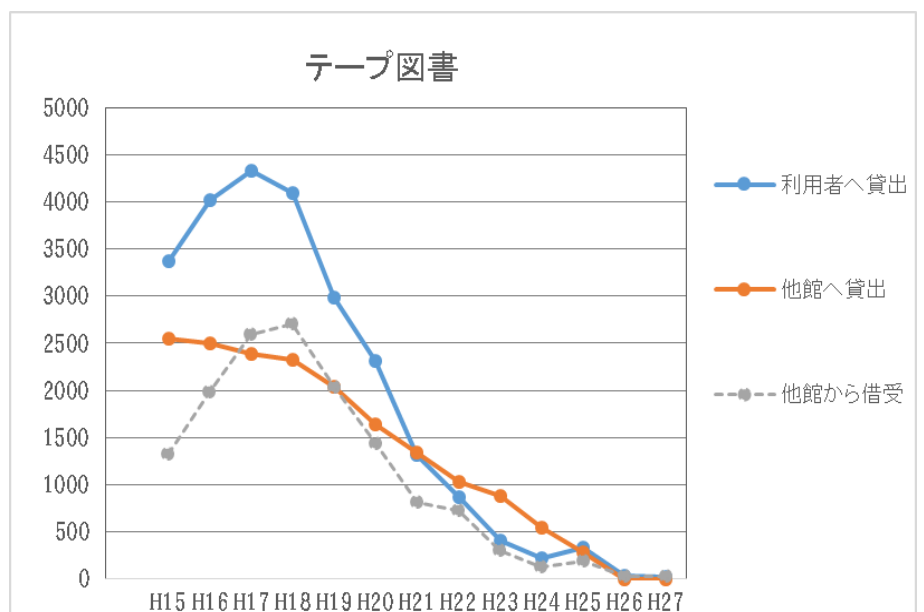
分類	媒体	点字図書	CD 図書
		タイトル	タイトル
4月		0	77
5月		0	43
6月		0	85
7月		0	59
8月		0	101
9月		0	112
10月		0	79
11月		0	49
12月		0	83
1月		0	85
2月		0	68
3月		0	75
合計		0	916

(エ) 利用状況の推移

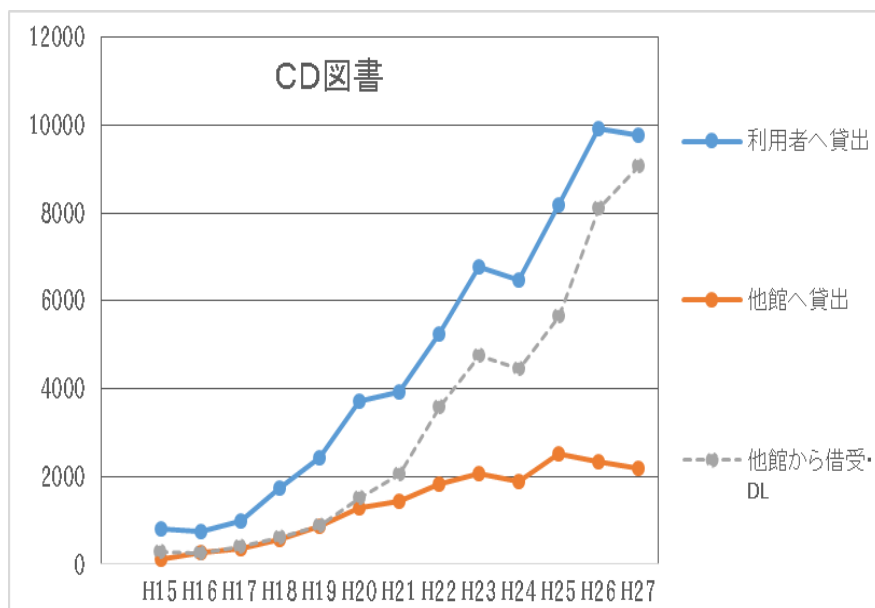
点字 図書	利用者 へ貸出	他館へ 貸出	他館 から借 受・DL
H15	127	163	55
H16	114	171	35
H17	174	220	23
H18	215	174	35
H19	98	188	13
H20	83	255	9
H21	61	239	15
H22	73	200	27
H23	132	202	45
H24	71	114	30
H25	130	114	64
H26	113	147	65
H27	80	170	42



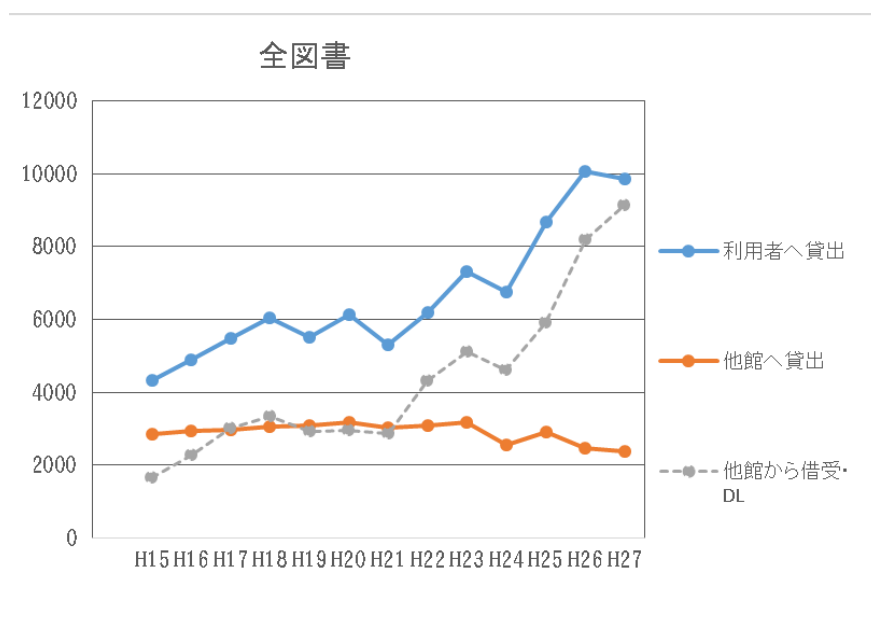
テープ 図書	利用者 へ貸出	他館へ 貸出	他館 から借 受
H15	3373	2553	1319
H16	4017	2495	1986
H17	4329	2390	2593
H18	4088	2319	2709
H19	2987	2034	2032
H20	2309	1637	1435
H21	1319	1340	806
H22	873	1032	721
H23	402	884	299
H24	216	541	125
H25	338	282	185
H26	31	0	31
H27	27	0	27



CD 図書	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	818	123	269
H16	756	283	252
H17	984	362	397
H18	1731	564	601
H19	2426	875	868
H20	3724	1286	1520
H21	3929	1444	2037
H22	5252	1839	3567
H23	6779	2073	4752
H24	6464	1893	4463
H25	8196	2522	5649
H26	9921	2328	8103
H27	9761	2195	9061



全図書	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	4318	2839	1643
H16	4887	2949	2273
H17	5487	2972	3013
H18	6034	3057	3345
H19	5511	3097	2913
H20	6116	3178	2964
H21	5309	3023	2858
H22	6198	3071	4315
H23	7313	3159	5096
H24	6751	2548	4618
H25	8664	2918	5898
H26	10065	2475	8199
H27	9868	2365	9130



(3) プライベートサービスの実施状況

点訳	39 件
点字複写	0 件
墨字訳	0 件
代筆	0 件
録音朗読	6 件
複製サービス	0 件
対面朗読	0 件
読書用機材貸出し	12 台

(4) 「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）

墨字版	点字版	C D版
168	87 名	211

(5) 図書館資料の受入状況

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの受入状況

・分類別蔵書数

分類	媒体		点字図書		C D 図書		テキストデータ	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
0 総記	3	11	1	1	0	0		
1 哲学	8	28	6	6	0	0		
2 歴史	8	30	14	14	0	0		
3 社会科学	34	73	19	19	0	0		
4 自然科学	10	27	14	14	0	0		
5 技術	4	17	4	4	0	0		
6 産業	2	8	5	5	0	0		
7 芸術	4	13	22	22	0	0		
8 言語	1	1	1	1	0	0		
9 文学	69	225	89	89	1	1		
合計	143	463	175	175	1	1		

・受入種別蔵書数

受入	点字図書		CD図書		テキストデイジー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	64	246	84	84	1	1
購入	0	0	0	0	0	0
寄贈	6	25	24	24	0	0
厚労省委託	73	192	67	67	0	0
合計	143	463	175	175	1	1

・シネマデイジー製作数 17 タイトル

(6) 「アイeyeセンターだより」の発行状況(個人、団体)

2015年11月より奇数月発行

墨字版	点字版
133	53名

(7) 点訳者の新年会・連絡会及び点訳相談会・校正者会議の開催

ア 点訳者・校正者新年会

点訳者の交流を目的として、新年会を開催しました。

日時：平成28年1月20日(水) 午後12時～午後3時 36名出席

イ 点訳関係者連絡会議

「第1回点訳関係者連絡会」

5月14日に点訳関係者が一堂に会する点訳関係者連絡会議を開催し点訳者30名の参加がありました。

日時：平成27年5月14日(木) 午後2時から

センターからのお知らせ、新メンバーの紹介、「点訳ナビゲーター」の特別講義

「第2回点訳関係者連絡会」

日時：平成27年10月30日(金) 午前10時から連絡会16名の参加がありました。

「統一英語点字(UEB)」の日本への導入や「日本点字表記法」の改定の動きなどについての最新情報説明

ウ 点訳相談会・校正者会議

校正者を講師とし、点訳で生じた疑問点の相談会を4回実施しました。

「第1回点訳者・校正者相談会」

日時：平成27年7月23日(木) 午後1時半から

「第2回点訳者・校正者相談会」

日時：平成27年10月30日(金) 午後1時半から

「第1回校正者会議」

日時：平成27年4月23日（木）午後1時半から

校正者の報告 事業計画・行事予定の報告 点字表記辞典最新版について

(8) 音訳者の連絡会、校正者会議等の開催

ア 音訳関係者連絡会

5月21日に音訳関係者が一堂に会する音訳者連絡会を開催し音訳者27名の参加がありました。録音図書の出し実績、製作状況、今後の蔵書構成の予定などについて説明を行いました。また、校正者より音訳校正の具体的な事例報告があり、雑音が入った場合、画面にどのような波形が出るのかという説明がなされ、今後の音訳活動の留意点を確認しました。

第2回音訳関係者連絡会を11月12日（木）に開催し音訳者23名の参加がありました。センター職員による「録音図書利用者としての声」、続いて勉強会「まちがいがやすい読み方～その読みで本当に合っていますか？～」勉強会の内容について、センター主催の全員が集まる堅苦しいものばかりではなく、音訳者同士で自主的にグループを作って、いろいろ試みていただきたいことを参加者に伝えました。

イ 校正者会議

年度を通じて計4回の校正者会議を開き、音訳関係者連絡会、スキルアップ研修会等の企画を含めて、様々な取り組み課題について検討しました。

ウ 毎週木曜日に音訳校正者にセンターに来ていただき、録音図書製作の問合せなどに対応いただきました。

(9) 音訳者スキルアップ研修会の実施

10月15日、25日に希望する音訳者を対象にした、デジ編集研修会を開催しました。

(10) 表彰

12月5日に開催された第35回「川崎市民のつどい」で、福祉功労者の方への市長表彰が行われました。図書製作協力者から点訳奉仕者と、音訳奉仕者が、更正援護功労者として選ばれました。長年にわたり、当センターの運営に多大なるご協力と他の音訳者や点訳者の模範となる活動を行った方々です。

「川崎市民のつどい」における市長表彰者

(身体障害福祉に係る更生援護功労者)

点訳奉仕者 伴 政子

音訳奉仕者 井澤 玲子

(11) アイ eye センターまつりの実施について

視覚障害者福祉に関する啓発及び川崎市視覚障害者情報文化センターの利用促進を目的として、2月に開催しました。180名を超える来場者にお越しいただき、盛況に終わらせることが出来ました。特別講演として行われた大胡田誠氏の「全盲の僕が弁護士になった理由」では、全盲の大胡田氏がどのように弁護士という仕事に取り組んできたか、そして失明から大学受験、司法試験への挑戦など、さまざまな壁に直面しながら、困難なことにいつもひたむきに向き合ってきたお話しに勇気づけられました。お話しの途中ではテレビ番組で紹介されたご一家の様子を画像で紹介し、全盲の奥様の料理支度の様子やお二人で育児に向き合う姿に、会場からは感動の声が上がりました。予定時間を越える長時間のお話でしたが、終了後も会場の皆様からの質問に答えられ、ご自身の著書の販売ではサイン会も開催いたしました。講演を聞かれた方のブログには早速「彼の真面目な人柄が全面的に出る、素晴らしい講演であった。」と紹介されていました。

また、2階ホールには各ボランティア団体の紹介コーナーを配置し来場者で賑わいました。音訳ボランティアの皆様による朗読ミニライブでは、朗読劇による「振り込め詐欺」に注意を呼びかけ、大変盛り上がりました。他にも、川崎市視覚障害者福祉協会の皆さんのマッサージ体験、拡大読書器や点字ディスプレイの紹介コーナー、点字体験、パソコン体験など大勢の方に立ち寄っていただきました。障害者作業所によるパンとクッキーの販売、そしてスターバックスによる本格コーヒーの提供コーナーを設け好評を得ました。今年初めてのブースとして、見えないからこそ気になるファッション、服装、ヘアスタイルなどのファッションアドバイス体験コーナーを設け、昨年に引き続き行った iPad 体験、点字・録音図書・サピエ体験、便利な用具・グッズ販売なども人が絶えることなく賑わっていました。休憩コーナーでは人が溢れて廊下まで椅子を増やして寛いでいただきました。絶えず人が各ブースに流れていましたので大変活気あるお祭りになったと思います。



(12) 読書会・講演会の開催

読書会は毎年春と秋の年2回開催しています。27年度は春の読書会を6月に、秋の読書会を12月に開催しました。また9月には文化講演会を開催しました。

春の読書会を次の内容で開催しました。

- ア 日時 平成27年6月5日(金) 13:30~16:00
- イ 会場 エポックなかはら
- ウ 作品 「家霊」岡本かの子著
- エ 参加者 5名

秋の読書会を次の内容で開催しました。

- ア 日時 平成27年12月4日(金) 13:30~16:00
- イ 会場 エポックなかはら
- ウ 作品 「紅梅」津村節子著
- エ 参加者 7名

文化講演会を次の内容で開催しました。

- ア 日時 平成27年9月5日(土) 13:30~16:00
- イ 会場 川崎市視覚障害者情報文化センター
- ウ 講演 「室生犀星をめぐる人と文学」
- エ 講演者 実践女子大学短期大学部日本語コミュニケーション学科
教授 高瀬真理子氏
- オ 参加者 9名

(13) 出前センターの開催

8月28日(金)に宮前区役所のロビーをお借りして図書館のこと訓練事業のこと日常生活に必要な便利グッズなどセンターの事業を1日ご紹介しました。一般の人も含めて40名ほどの方が立ち寄られました。



(14) 図書整理を行いました

8月15日、16日に図書整理を行ないました。昨年度に続いて点字図書の児童書、厚労省委託図書や蔵書計画に関係なく寄贈されたものを対象に除架作業を行いました。今回はあわせて録音図書の配架スペースを広げる作業を行ないました。

- ① 15日(土)除架する点字図書を点検し書棚から外す作業を行った。
- ② 16日(日)録音図書の配架スペースを広げる作業を行った。
- ③ 16日(日)午後16時に「ゆめが丘DC」が、廃棄図書を受け取りに来た。「ゆめが丘DC」は、廃棄した点字図書を利用して封筒やグッズを製作しています。今回廃棄した点字図書は、点字の啓発普及を目的として有効活用されました。

(15) 「音声ガイド制作者養成講習会」を開始しました

「音声ガイド制作者養成講習会」を10月14日から毎週水曜日の午後に開催しました。映画の音声ガイドの基本から、原稿作り、制作まで初心者の方を対象とした講座です。全8回の講習で実際に映画の音声ガイドを作りました。

(16) 視覚障害者訓練事業の実施状況

川崎市視覚障害者情報文化センターとして2年目を迎え、利用者の方には概ね認知されつつあるように思われます。新規訓練の申し込みはコンスタントにあり、随時必要な訓練を提供させていただいています。訓練の内容は歩行訓練、パソコン訓練といった具体的なものを希望する方もいらっしゃいますが、“急に視機能が低下し今後どのように生活をしていけばよいかアドバイスがほしい”“現在仕事を休職しているが職場に復帰するためにはどうしたらよいか?”“視覚障害になって引きこもっている状態で、今後の生活が見通せない”など、相談の内容は多岐に渡っています。

訓練をする以前に、同行援護の説明や職業訓練施設の紹介、地域包括支援センターの方々との連絡調整など、利用者の方のニーズに合わせて相談を受け、可能な範囲でケースワーク的な業務にも取り組んでおります。

ラジオ、プレクストーク、時計、白杖などの用具についての問い合わせ、購入時における取り扱い説明、白杖の使用法の解説など、単に物品を販売するに留まらず、購入者の状況に合わせて商品の選定をするように心がけており、来館者からは丁寧な対応に対し、評価もいただくようになりました。

利用者相互の交流を深めることにも取り組んでおり、2ヶ月毎に通称“ぶらぶら会”を実施し、普段の生活の中で不自由に感じていることなどを当事者同士で話し合ったり、励ましあったりする環境を提供しています。11月に実施した屋外交流会では、20名ほどの利用者と静岡県富士宮市にある盲導犬施設を訪問し、体験歩行などを楽しみ交流を深めました。

ア 訓練申請と利用契約の状況

(ア) 訓練の申請状況

平成 26 年度からの申請繰越 2 件、平成 27 年度申請分 26 件、合わせて 28 件の訓練申請がありました。

	平成 27 年度実績	前年度実績
申請受付件数	26	38
前年度からの 申請繰越し件数	2	0
申請件数計	28	38

(※) 要綱改正後の手続きにより、改めて利用者と直接契約を結んだ件数です。

(イ) 訓練の契約状況

申請のあった 28 件に対して訓練利用契約を締結し、訓練を実施しました。

	平成 27 年度実績	前年度実績
新規契約件数	28	30
前年度からの 契約継続件数	21	7
契約件数計	49	37

イ 訓練生の状況

(ア) 年齢別の状況

平成 27 年度に訓練を実施した 49 件 36 名の年齢別の統計です。
主に中途視覚障害者を対象としているため、40 歳以上の方がほとんどです。

区分	男	女	計
18 歳未満	0	0	0
18 歳以上 40 歳未満	2	1	3
40 歳以上 65 歳未満	5	13	18
65 歳以上	11	4	15
計	18	18	36

(イ) 地区別の状況

区分	男	女	計
川崎福祉事務所	2	2	4
大師福祉事務所	4	1	5
田島福祉事務所	0	0	0
幸福社事務所	1	3	4
中原福祉事務所	2	3	5
高津福祉事務所	0	4	4
宮前福祉事務所	3	1	4
多摩福祉事務所	4	1	5
麻生福祉事務所	2	3	5
計	18	18	36

(ウ) 障害程度別の状況

大区分	小区分	男	女	計
1 級	0(a)	3	2	5
	明暗弁(b)	4	6	10
	手動弁(c)	1	1	2
	指数弁(d)	1	0	1
	0.01(e)	0	0	0
2 級		8	8	16
3 級		1	1	2
4 級		0	0	0
5 級		0	1	1
6 級		0	0	0
不所持		0	0	0
計		18	18	36

(a) 両眼が失明した者

(b) 暗室にて被検者の眼前で照明を点滅させ、明暗が弁別できる視力がある者

(c) 検者の手掌を被検者の眼前で上下左右に動かし、動きの方向を弁別できる者

(d) 検者の指の数を答えさせ、それを正答できる最長距離が 1m未満の者

(e) 両眼の視力の和が 0.01 以下の者

(エ) 障害原因別の状況

大区分	小区分	男	女	計
中途障害	外傷	0	0	1
	糖尿病	9	1	10
	原因不明	8	14	22
	その他(※)	1	2	3
先天障害		0	1	1
計		18	18	36

(※) 網膜芽細胞種、脳梗塞

(オ) 眼疾患別の状況

区分	男	女	計
眼球全体(a)	6	3	9
角膜疾患(b)	0	0	0
水晶体疾患(c)	1	3	4
ブドウ膜疾患(d)	0	1	1
網膜疾患(e)	11	14	25
視束・視路疾患(f)	2	1	3
硝子体疾患	0	0	0
強度近視	0	0	0

(a) 緑内障、ステューブンスジョンソン症候群、眼球ろう、内因性眼内炎

(b) 角膜白斑、角膜白濁

(c) 白内障、両眼無水晶体

(d) ブドウ膜炎

(e) 網膜色素変性症、糖尿病網膜症、網膜剥離、虚血性網膜症、増殖性網膜炎、網膜芽細胞腫

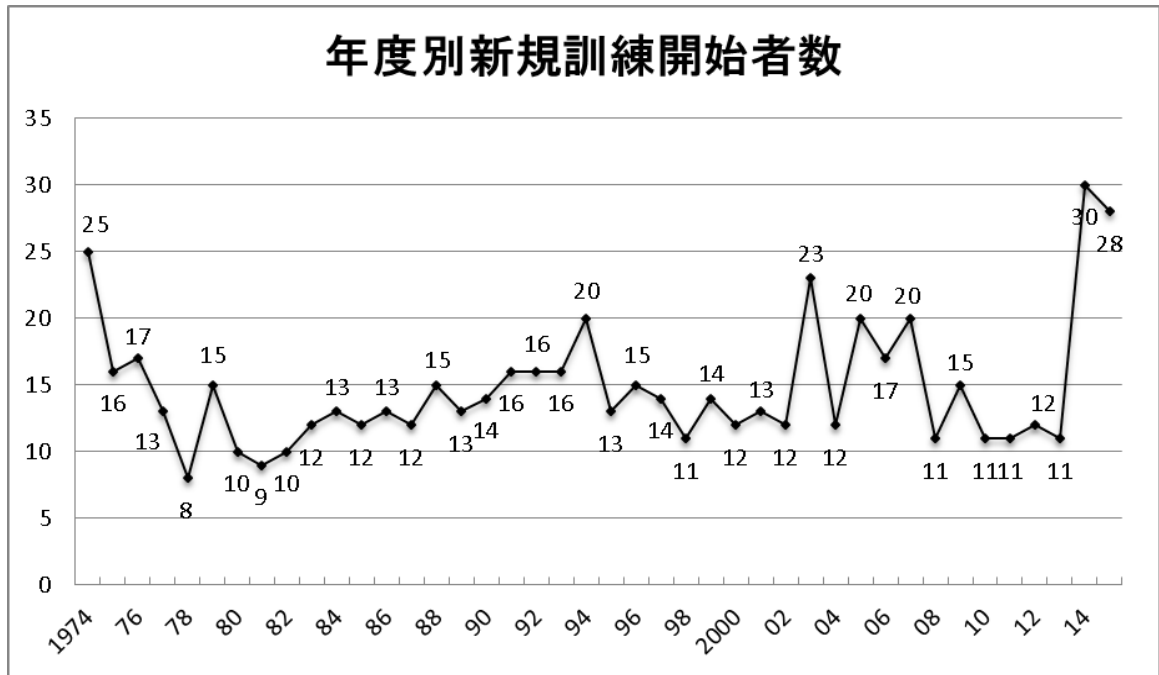
(f) 視神経萎縮、有髄神経線維、脳梗塞

眼疾患については、一名が複数の疾患を有している場合もすべて計上していません。

ウ 訓練の年度別の状況

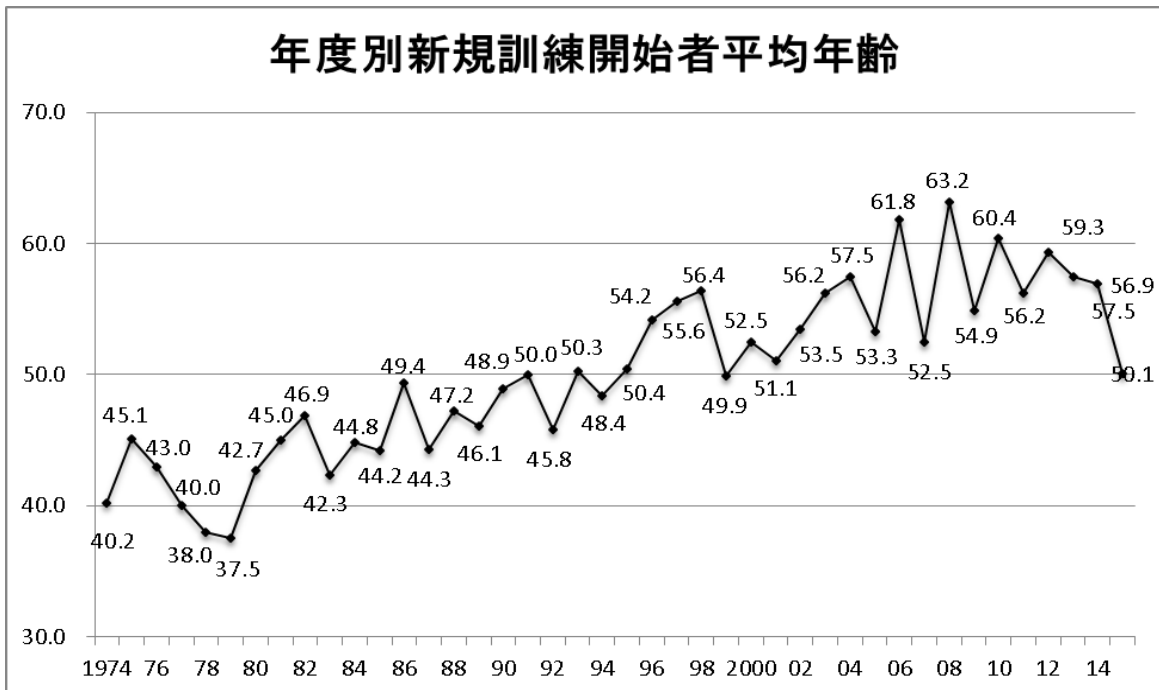
(ア) 新規訓練開始者の状況

新規訓練開始者の数は、昨年とほぼ変わらない状況です。センターの訓練事業が地域の各機関に知られてきていることが伺えます。



(イ) 新規訓練開始者の平均年齢の状況

年度別での平均年齢をみると、昨年は やや平均年齢が下がりました。就労を目指してパソコン訓練を開始したケースが数件あったためと考えられます。



エ 訓練の内訳

平成 27 年度に実施した訓練の内訳です。合計 51 件、延べ 824 回の訓練を実施しました。

区 分		平成 27 年度				平成 26 年度	
		男	女	計	訓練回数	件数	訓練回数
コミュニケーション訓練	点 字	4 件	4 件	8 件	122 回	6 件	118 回
	ハンドライティング	0 件	0 件	0 件	0 回	1 件	5 回
	パソコン	3 件	7 件	10 件	222 回	23 件	198 回
	小 計	7 件	11 件	18 件	344 回	30 件	321 回
歩行訓練	白 杖	17 件	11 件	28 件	437 回	24 件	191 回
	小 計	17 件	11 件	28 件	437 回	24 件	191 回
日常生活訓練	身辺処理	0 件	1 件	1 件	21 回	4 件	28 回
	裁縫・編物	0 件	0 件	0 件	0 回	0 件	0 回
	調 理	2 件	2 件	4 件	22 回	3 件	7 回
	小 計	2 件	3 件	5 件	43 回	7 件	35 回
計		26 件	25 件	51 件	824 回	61 件	547 回

オ 各訓練の状況

(ア) コミュニケーション訓練

訓練実施件数は、点字 8 件、パソコン 10 件の計 18 件で、点字が昨年より 2 件の増加がありました。訓練回数も 118 回から 122 回と増加しました。

視覚以外に身体に障害を抱えている方、60 歳以上の高齢者も多くいることから、共通の訓練プログラムを土台としながらも、訓練生個々の状況やニーズに合わせた柔軟な対応をしないと効果は上がりません。障害を受け入れるためのきっかけづくりとして点字・パソコンを学び、それを足掛かりとして社会復帰を目指すケースも見られます。

点字は、中途視覚障害、しかも高齢となると、すらすらと本が読めるようになることは稀にしかなく、目標も日常生活の中で簡単なメモを取ったり、読み返したりといった、より生活に即したものになります。

パソコンは、メールを含めたウェブ利用、ワードでの文書作成、エクセルを利用した表計算等、訓練内容は多岐に渡りました。初めてパソコンを触る方などは、基本的な操作やキータッチから始めますので、訓練も長期間に及びます。

(イ) 歩行訓練

平成 27 年度に実施した歩行訓練は 18 件と昨年と比較すると 4 件減少し

ていますが、訓練回数は 191 回から 437 回と増加しています。高齢の方も多く、体力等の関係から、短い訓練時間で回数を重ねて訓練を行うことが多くありました。単独で歩く訓練以外にも、介助者と安全に歩くといった移動介助の訓練を行うこともあります。

自宅や病院内等といった屋内歩行、センターまでの道順の他、自宅近辺や、通院、通学や通勤の為の歩行訓練など本人の希望や目的、体調、視覚の状況によって訓練内容は変わってきます。

(ウ) 日常生活訓練

平成 27 年度に実施した訓練は身辺処理が 1 件、調理が 4 件、裁縫は 0 件でした。

身辺処理訓練は掃除や片付け、簡単な裁縫などの日常生活一般の内容の訓練の他に、CD 図書再生機や携帯電話などの機械操作の訓練などカバーする分野が広いのが特徴です。

機械操作については、携帯電話でメールが打てるようになる、片付けについては、整理整頓の方法を伝えることで、居室が片付き、移動の安全性が確保できるようになるなどの成果が見られました。

調理訓練は電磁調理器や電子レンジなどといった火を使わず安全で簡単な調理方法を伝えました。また、複数の訓練生によるグループ訓練も行いました。

カ 相談業務等の状況

(ア) 相談の状況

本人、家族、区役所・介護事業所・就労支援センターなどといった地域の関係機関等、相談者は多岐に渡ります。出前センターに参加したことがきっかけで、用具に興味を持ち、問い合わせを行ったというケースもありました。複数の区分にまたがる相談もあり、困っていることが生活全般にわたっていることが分かります。また、昨年を引き続き、用具の相談や購入から訓練につながるケースも多くあります。

以前訓練を受けていた方からの相談も多く、訓練が終了しても継続的な支援が必要であるといえます。

区分	平成 27 年度 件数	平成 26 年度 件数
訓練(a)	94	66
各種用具(b)	22	10
その他(c)	18	28
計	134	104

(a) 訓練に関する相談の種類と件数

1件の相談に対して複数の訓練の相談を含む場合もあります。各種訓練相談の他に、どういう訓練があるのか、どの訓練を受けるべきかといった訓練全体に対する相談もありました。また、地域包括支援センターや介護事業所などからの問い合わせもあり、高齢の視覚障害者への支援に関する相談も増えています。

(b) 各種用具に関する相談の種類と件数

録音図書再生機器であるプレクストークや音声・拡大読書機の操作方法、パソコンの設定やトラブル対応等、電子機器に関する相談が多く見られました。単なる給付申請の為の見積書発行業務などは相談業務にカウントしていません。

(c) その他に関する相談の種類と件数

進路、就職に関する相談として、保護者や教諭からの児童・生徒に対する支援についての相談や、見えづらいが、手帳を取得できない方からの就労に関する相談などが見られました。

(イ) 訪問指導・来所指導の状況

1件の相談に対して、数回の訪問あるいは来所が必要になる場合があります。そうしたケースを訪問指導あるいは来所指導として、相談および訓練とは分けて対処しています。

区分	件数	延回数
訪問指導	85件	114回
来所指導	49件	88回
計	134件	202回

具体的には、視覚障害者用ポータブルレコーダーの基本的な使い方、白杖・日常生活用具の紹介、生活状況の聞き取り等です。

キ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会

- a 日時 平成27年7月17日(金) 13:30~16:30
- b 場所 センター3階多目的室
- c 対象 福祉事務所、県内関係施設、当訓練担当職員
- d 参加人数 30名
- e 内容 ・平成26年度事業報告及び質疑・意見交換
・日常生活用具・補装具類・各種訓練体験コーナーでの実演
・デージー図書再生機の操作体験

ク 訓練生懇親会

(ア) 屋外交流会の実施状況

職員とマンツーマンで訓練している訓練生が、同じ障害を持つ訓練生と交流・親睦を深め、今後の社会参加を促すことを目的として実施しました。川崎市の福祉バスで富士ハーネスへ出かけました。見学では、盲導犬の一生のレクチャーを受けたり、歩行体験を行ったりと参加者には充実した時間を過ごしていただきました。

- a 日時 平成 27 年 11 月 5 日（木） 8:00～16:00
- b 場所 盲導犬の里 富士ハーネス
- c 参加人数 訓練生 11 名、付き添い及び職員 16 名、合計 42 名



(イ) 懇親会(ぶらぶら会)の開催

センターで訓練を実施した利用者を対象とした懇親会を 10 回行いました。視覚障害についての不安や悩みを分かち合うことや、それぞれの買物の仕方などを話し合うことで、生活していく上での工夫を知ることなど、参加者にとって有意義な会になりました。

- a 日時 各回 13:00～15:00
- b 場所 センター多目的室
- c 参加人数 5～6 名

4 月 8 日	水	お花見
6 月 10 日	水	情報交換（フリートーク）
7 月 3 日	金	盲導犬体験会
8 月 5 日	水	フリートーク「生活の工夫」
9 月 18 日	金	ファッションアドバイス
10 月 7 日	水	情報交換（フリートーク）
11 月 5 日	木	屋外交流会(富士ハーネス)
12 月 4 日	金	情報交換（フリートーク）
1 月 8 日	金	川崎大師(初詣)
2 月 3 日	水	近況報告 フリートーク
3 月 2 日	水	ライブ音声ガイド体験

ケ パソコンサポートボランティア研修会

川崎パソコンサポートクラブ (KPC) との共催で iPad 体験講習会を 1 回実施しました。

- a 日時 平成 27 年 11 月 26 日
- b 場所 エポック中原 5 階ボランティア交流室
- c 参加人数 4 名

コ 講師派遣の状況

(ア) 川崎市警察署 署員研修会で視覚障害者の誘導について指導

- a 日時 平成 27 年 5 月 20 日
- b 場所 川崎市警察署
- c 内容 視覚障害者の誘導について外勤勤務署員 70 名に指導する。

(イ) 中部身体障害者会館主催のボランティア親子体験

- a 日時 平成 27 年 7 月 30 日
- b 場所 川崎市中部身体障害者会館
- c 内容 参加者に対し点字の書き方練習を指導した。

(ウ) 川崎市視覚障害者福祉協会主催「プレクストーク操作説明会」

- a 日時 平成 27 年 8 月 23 日
- b 場所 川崎市北部身体障害者福祉会館
- c 内容 各種プレクストーク機器の操作説明

(エ) デイジー川崎と共催でマルチメディア講習主催

- a 日時 平成 27 年 10 月 16 日、30 日 13 時～16 時
- b 場所 福祉パル宮前
- c 内容 マルチメディア DAISY 図書とはどのようなものかを知り、その製作方法と実習を交えながら学ぶ。

(オ) 川崎区京町小学校でのアイマスク体験

- a 日時 平成 27 年 11 月 6 日
- b 場所 川崎区京町小学校
- c 内容 4 年生 2 クラス約 80 人に対し、白杖の体験を担当した。

(カ) 川崎市営バス 運転手研修会で視覚障害者への声かけについて指導

- a 日時 平成 27 年 12 月 14 日、16 日、17 日
- b 場所 井田営業所、塩浜営業所、鷲ヶ峰営業所
- c 内容 バス乗降時の視覚障害者への声かけについて、運転者延べ 120 名に指導する。

サ 研修への参加状況

- (ア) 鉄道ホーム改善推進協会セミナー
- a 日時 平成 27 年 4 月 18 日
 - b 場所 日本盲人会連合
 - c 内容 ECS への誘導についてのセミナー
 - ・公共交通機関旅客施設の視覚障害者のエスカレーター利用に関する研究
 - ・日本と香港の比較を踏まえた新しいエスカレータの音サイン提案
- (イ) NVDA ミートアップ東京 2015.2
- a 日時 平成 27 年 6 月 20 日
 - b 場所 日本盲人会連合
 - c 内容 無料音声化ソフト NVDA 最新版紹介、Windows10 への対応状況デモ、NVDA を巡るコミュニティについて、NVDA 基本操作、NVDA リモートアクセス機能の紹介などアンカンファレンス形式の分科会主導型ミーティング
- (ウ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 1 回歩行指導事例検討会
- a 日時 平成 27 年 7 月 7 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 各施設の歩行指導の事例を知り、情報交換を行う。今回は、七沢ライトホームと横浜市盲特別支援学校のアウトリーチの事例。
- (エ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 1 回視覚障害乳幼児指導事例検討会
- a 日時 平成 27 年 7 月 9 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 先天性視覚障害児に関する講演や情報交換を行う。主な参加者は当事者の親や盲学校の教諭。ライトセンターで行っている交流会についても報告があった。
- (オ) 2015 全国ロービジョン（低視覚）セミナー
- a 日時 平成 27 年 7 月 25 日
 - b 場所 戸山サンライズ
 - c 内容 視覚障害者の就労、糖尿病に関する講演、午後は当事者の就労に関するパネルディスカッション。
- (カ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 1 回コミュニケーション指導事例検討会
- a 日時 平成 27 年 7 月 28 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 各施設におけるコミュニケーション指導の状況について

- (キ) 全国視覚障害者情報提供施設協会主催 2015 年度サピエ研修会
- a 日時 平成 27 年 7 月 31 日
 - b 場所 金光教玉水記念館
 - c 内容 サピエの基礎を学ぶ、視覚障害者等への情報提供とサピエ関係報告、サピエを活用したサービスを考える。
- (ク) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 2 回コミュニケーション指導事例検討会
- a 日時 平成 27 年 10 月 6 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 各施設における ipad、iphone の指導について、情報交換。
- (ケ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 2 回日常指導事例検討会
- a 日時 平成 27 年 10 月 16 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 メイク指導のマニュアル検討、情報交換。
- (コ) 平成 27 年度関東地区点字図書館協議会秋期研修会
- a 日時 平成 27 年 11 月 5 日、6 日
 - b 場所 三の丸ホテル(茨城県水戸市)
 - c 内容 講演 1「さわれる富嶽三十六景製作裏話」、講演 2「当事者から見た視覚障害者の現状と、情報提供施設に望む機能・あり方」
情報交換「利用者へのサービス・対応の現状と、これからの利用者
と施設のあるべき関係について」
- (サ) 日本盲人社会福祉施設協議会の主催による第 34 回音訳指導技術講習会
- a 日時 平成 27 年 11 月 11 日、12 日、13 日
 - b 場所 霊友会釈迦殿・小谷ホール
 - c 内容 視覚障害者情報提供施設・団体の録音資料製作担当指導者としての知識・技能について。
- (シ) 日本盲人社会福祉施設協議会主催 第 34 回音訳指導技術講習会
- a 日時 平成 27 年 11 月 11 日、12 日、13 日
 - b 場所 霊友会釈迦殿・小谷ホール
 - c 内容 視覚障害者情報提供施設・団体の録音資料製作担当指導者としての知識・技能について。
- (ス) 平成 27 年度神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会職員研修会
- a 日時 平成 27 年 11 月 27 日
 - b 場所 藤沢総合市民図書館
 - c 内容 高齢視覚障害者のかかえる問題について、一般の老人ホームに入

所している視覚障害者から話があり、どのような点に苦労しているか、施設での楽しみは何かなどの話があった。

- (セ) 平成 27 年度日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会職員研修会
- a 日時 平成 27 年 11 月 20 日、21 日
 - b 場所 日本盲導犬協会神奈川訓練センター
 - c 内容 自立支援のあり方、各施設の事業運営、施設間の連携について考える研修。
- (ソ) 全国視覚障害者情報提供施設協会の主催による点字担当職員研修会&新任点字担当職員研修会
- a 日時 平成 27 年 12 月 10 日、11 日
 - b 場所 新宿 NPO 協働推進センター・日本点字図書館
 - c 内容 新採用・異動等によって、点字に対する十分な知識・技能のないまま担当することになった職員に対し、基本的な事項習得のための研修。
- (タ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 2 回歩行指導事例検討会
- a 日時 平成 28 年 1 月 14 日
 - b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
 - c 内容 高齢者の歩行訓練について、来年度の予定について、情報交換。
- (チ) 未来型医療とロービジョンケア
- a 日時 平成 27 年 1 月 29 日、30 日
 - b 場所 神戸臨床研究情報センター
 - c 内容 先端研の高橋政代先生を中心とした新たなグループが活動を開始。関係機関へのアピールを含め、今後の展望についての研修を実施。
- (ツ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 3 回コミュニケーション指導事例検討会
- a 日時 平成 28 年 2 月 2 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 各施設における ipad、iphone の指導事例発表、情報交換。
- (テ) 送迎(福祉)車両安全運転講習会
- a 日時 平成 28 年 2 月 3 日 10 時～12 時
 - b 場所 一般社団法人神奈川県自動車整備振興会教育センター
 - c 内容 車椅子の正しい固定方法及びメンテナンス方法、リフト・固定装置・ステップ等故障時の緊急回避方法。
- (ト) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による第 3 回日常指導事例検討会

- a 日時 平成 28 年 2 月 13 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 日常的にメイクを実践している視覚障害者によるメイクアップのデモ、情報交換、来年度の予定について。

(ナ) 視覚障害リハビリテーション関東甲信ブロック会

- a 日時 平成 27 年 3 月 5 日
- b 場所 山梨ライトハウス
- c 内容 自立支援のあり方、各施設の事業運営、施設間の連携について考える研修。当日は眼科医の参加もあり、地域リハにおける眼科医の役割について再認識する。

シ 関係機関との連携

(ア) 川崎市自立支援協議会

- a 日時 平成 27 年 4 月 14 日以降毎月 1 回開催し出席してきた。
- b 場所 南部身体障害者会館
- c 内容 各加盟施設の自己紹介。その後、ワーキングチームとして「児童期」「成人期」「高齢期」の 3 つに分かれて討論。後半は専門委員会として「広報委員会」「研修委員会」「当事者参加委員会」の 3 つに分かれて討論を行う。

(イ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会定期総会

- a 日時 平成 27 年 5 月 22 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 平成 26 年度事業報告並びに決算報告
平成 27 年度事業計画及び予算案

(ウ) オブリガード(川崎市視覚障害者ボランティア連絡会)の総会

- a 日時 平成 27 年 6 月 3 日
- b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- c 内容 今年度センター事業計画と行事について説明する。

(エ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事務連絡会

- a 日時 平成 27 年 6 月 18 日、9 月 17 日、平成 28 年 2 月 19 日
- b 場所 横浜市立盲特別支援学校、七沢更正ライトホーム、横浜訓盲院生活訓練センター
- c 内容 職員研修会の内容について等

(オ) 全国視覚障害者情報提供施設協会 27 年度通常総会、施設・団体長研修会

- a 日時 平成 27 年 6 月 19 日
- b 場所 日本点字図書館

- c 内容 平成 26 年度事業報告並びに決算報告
平成 27 年度事業計画及び予算案
- (カ) 平成 27 年度日本盲人社会福祉協議会第 63 回全国盲人福祉施設大会
 - a 日時 平成 27 年 6 月 25 日、26 日
 - b 場所 ザ・セレクトン福島
 - c 内容 講演会「震災後の現状とこれから」、「眼科医と視覚障害者のつながり」
- (キ) 第 24 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会
 - a 日時 平成 27 年 6 月 27 日、28 日、29 日
 - b 場所 コラッセふくしま
 - c 内容 シンポジウム「地域のリハの取り組み」川崎市視覚障害者情報文化センターの特徴や取り組みについて報告する。
- (ク) 全国点字図書館ヒアリング会
 - a 日時 平成 27 年 8 月 7 日
 - b 場所 国立障害者リハビリテーションセンター学院
 - c 内容 点字図書館 14 施設が参加。それぞれ参加施設の事業規模と事業内容についてヒアリングを行なった。
- (ケ) 笹の会（日常生活指導研究会）
 - a 日時 平成 27 年 10 月 17 日、平成 28 年 2 月 6 日
 - b 場所 東京都視覚障害者生活支援センター
 - c 内容 「笹の会」は調理に関するマニュアル、裁縫、編み物に関するマニュアル作りなど、派手ではないが地道に活動を継続してきている。日常生活訓練の訓練情報や研修の必要性もあり参加する。

ス 展示会などへの参加状況

- (ア) JRPS 主催「アイフェスタ」
 - a 日時 平成 27 年 4 月 26 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 JRPS 神奈川支部主催の福祉機器展示会「アイフェスタ」用具日常生活用具・便利グッズの展示即売会
- (イ) 平塚盲学校 弱視レンズ・拡大読書器・日常生活用具展示会
 - a 日時 平成 27 年 5 月 15 日、10 月 31 日(文化祭)
 - b 場所 平塚盲学校
 - c 内容 生徒、職員、地域の視覚障害者やその家族を対象にした「生活便利グッズ」展示会に参加する。

(ウ) 神奈川県ライトセンター「移動ライトセンター」

- a 日時 平成 27 年 9 月 6 日
- b 場所 茅ヶ崎市福祉会館
- c 内容 福祉機器紹介、デイジー図書紹介、スポーツ紹介、音声ガイド付き映画の上映など

(エ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会主催の「H27 年 第一回かなエール」

- a 日時 平成 27 年 8 月 1 日
- b 場所 横須賀市産業交流プラザ
- c 内容 福祉機器紹介、デイジー図書紹介、就労相談、iPad 体験、盲養護老人ホーム紹介などを行った。

(オ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会主催の「H27 年 第二回かなエール」

- a 日時 平成 27 年 9 月 27 日
- b 場所 小田原市川東タウンセンター マロニエ
- c 内容 福祉機器紹介、デイジー図書紹介、就労相談、iPad 体験、盲養護老人ホーム紹介などを行った。

<用具について>

白杖やデイジー再生機を給付申請しに来た方、ショッピングを楽しみにきた方などに商品説明をしながらニーズを把握することが出来ます。その結果、視覚リハや図書登録につながるケースが非常に多いです。また、相談や視覚リハ希望で来所された方が、多様な用具に触れることにより日々の困りごとを解決したり、新たなニーズを獲得しています。訓練生に対しても「新商品があるから用具に遊びに来れば？」など施設利用を促すことが可能です。他にも、歩行訓練士がいることで安心して白杖を購入できるなどの声も寄せられています。「買い物」という気軽に利用可能なスペースがあることで、施設に来る人への間口を広げています。

視覚障害者のための日常生活便利グッズの見本を展示し、センターに来館された方に直に手に取って試してもらい、取り扱いの説明を職員が行っています。見本などは一定数購入し、新商品が出れば随時取り揃えています。その場での時間をかけての説明はもちろん、ご自宅での使用に困り相談を受けた時は、訓練担当職員が直接ご自宅を訪問してサポートを行うなど、大変好評をいただいています。

また、小田原、横浜での用具展示会にも参加し、県内他地域の方々に直接用具をご紹介する機会となったほか、横須賀の点字図書館からも問い合わせがあるなど、つながりが広がっています。

<啓発普及について>

福祉事務所での手帳交付時に事業案内ができるパンフレット・用具カタログ等を製作し、各福祉事務所、生活支援センター、関連機関・団体、市内眼科等を訪問し配布を行いました。

図書館事業・視覚障害者訓練事業の内容を知ってもらい、利用者への支援を広め深める為、行政関係者を対象とした事業報告会を開催しました。

川崎警察署署員、川崎市市営バス運転手を対象に視覚障害者の誘導について職員を派遣し研修を行ないました。

<防災・減災対策の推進について>

ふれあいプラザかわさき全体で避難訓練を2回開催しました。1月に視覚障害者の防災対策セミナーを開催し災害への準備、心構えなど、視覚障害者が事前に準備しておくべきことをセミナー形式で伝え、AED体験や視覚障害者向けの防災グッズなども紹介しました。

<イベントについて>

地域の方も含め多くの方にセンターの業務を理解していただくため、催し物を数多く行ってきました。

その他、8月には宮前区役所のロビーをお借りして「出前センター」を行い、図書館のこと、訓練事業のこと、便利グッズの紹介をしました。5月にチターとフルート、チェロのトリオの演奏による「かわさき春のコンサート」の開催、12月には和太鼓とホルンの演奏「かわさき冬のコンサート」を開催し、利用者、支援者、地域の方々に2階ホールが満席になり盛況でした。

毎月第4土曜日の音声解説付きDVD映画体験上映会はイベントとして定着しています。国立国会図書館が保存する戦前のSP版レコードの歴史的音源を、定期公開する「れきおんクラブ」に参加した方たちに楽しんでいただきました。

<関係団体との協力について>

川崎市財政局財政課5名の見学、高津区役所関係者2名、神奈川障害者職業能力開発校等の見学がありました。

毎週木曜日に川崎市視覚障害者福祉協会が交流室を利用していますが、郵便物の受取や会報の発送などサポートを行っていききました。5月開催のセンター主催コンサートでは共催として、川崎市かわさき老人福祉・地域交流センター、川崎市視覚障害者福祉協会に協力をお願いいたしました。また川崎市視覚障害者福祉協会の総会がふれあいプラザかわさき2階ホールで開催のときは、会場設営、片付け、センターの会議室を提供するなど協力を行なっています。全国視覚障害者情報提供施設協会、日本盲人社会福祉施設協議会、関東地区点字図書館協議会等の総会や研修会に積極的に参加してきました。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市視覚障害者情報文化センター	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人日本点字図書館 ・代表者名 理事長 田中 肇二 ・住所 東京都新宿区高田馬場1-23-4	評価者	健康福祉局障害福祉課長
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	所管課	健康福祉局障害福祉課 障害福祉課

2. 事業実績

利用実績	<ul style="list-style-type: none"> 点字図書の提供 113タイトル(計画 50タイトル) 録音図書の提供 9,952タイトル(計画 6,000タイトル) 点字雑誌の提供 356タイトル(計画 500タイトル) 録音雑誌の提供 5,301タイトル(計画 3,100タイトル) 点字図書の製作 48タイトル(計画 40タイトル) 録音図書の製作 88タイトル(計画 100タイトル) プライベートサービス 点訳 38件 音訳 10件 		<ul style="list-style-type: none"> 読書用機材の貸出し 14台 点訳者の養成講座 計 18回 延べ164人 音訳者の養成講座 計 17回 延べ443人 各種訓練 計61件(計画 55件) 和訳業務 計104件(計画 70件) 聴覚普及イベントの実施 音声解説付DVD体験会 年12回 延べ143人 センターまつり 参加者 230名 		
収支実績	事業活動収入	指定管理料	91,757,000	事業費支出	16,187,058
	事業収入	雑収入	594,533	事務費支出	6,701,282
	合計	合計	92,452,624	その他支出	3,017,088
	事業活動支出	人件費支出	62,838,805	収支差額	3,708,391
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> 庁内機関との連携強化のため、福祉事務所職員を対象に事業説明会を行った。 教育機関との連携強化のため、市内小中学校教職員見学会を行った。 関係機関との連携強化のため、各協会の活動に協力し、情報収集や課題研究を行った。 センターまつりを開催し、ボランティア団体や地域住民との交流を深めた。 啓蒙事業として、読書会、朗読会、音楽コンサート、映画鑑賞会、防災対策セミナーなどを積極的に開催した。 				

3. 評価 (評価段階:5~1,標準:3,加点割合:5→100%4→80%3→60%2→40%1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点字図書および録音図書の貸し出しについて、当初の事業計画を上回る実績で実施した。 点字図書および録音図書の製作について、概ね事業計画通り製作した。製作する図書の選定にあたっては、書店と連携するなどの画期的な方法を取り入れた。 プライベートサービスおよび読書用機材の貸出しについて、視覚障害者のニーズに応じてサービスを提供した。 点訳者および音訳者の養成講座について、隔年で実施する予定だったが両方開催した。また、技術向上のための研修会について、必要に応じて実施した。 視覚障害者の訓練及び各種和訳について、当初の事業計画を上回る実績で実施した。訓練および和訳と併せて、法人の用具取扱い業務のノウハウを生かし、視覚障害者のための便利グッズの紹介および販売を行い、視覚障害者の福祉の増進を図った。 					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な事業に取り組んでいる一方、指定管理料の中で適切な執行を行った。 社会福祉会計基準に則り、適正な会計処理が行われている。 					
サービス体	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4	
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				

組織管理体制	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書貸出し業務およびプライベートサービスについて、仕療書に基づき利用者個々の事情に配慮した上で適切に提供された。 訓練事業については、川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業実施要綱に基づき、利用者のニーズに合わせた個別支援計画を策定し各種訓練を実施した。 訓練担当者によるケース会議を週1回行い、課題の共有、支援方針の確定、検証等を行っている。解決し難い課題については、法人本部と連携し専門性を持った職員に助言を求めするなどして対応している。 加盟している施設団体を通じて、業界の最新の情報収集や課題研究に努めている。 訓練事業の利用につながるよう、事業案内パンフレットを作成し、各種施設事務所や生活支援センター等に配布を行った。 各種イベントの際には、参加者アンケートを実施し、サービスの向上に努めている。 				
	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連絡体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、業務を多く配置するなどして、担当者が不在の場合でも各事業が円滑に実施されるような体制をとっている。 所管課とは必要に応じて連絡を取り、事業の遂行や運営の助言を仰いでいる。 担当者のスキルアップについて、専門性を向上させるための内部研修および外部研修を実施している。 安全・安心への取組みとして、法人本部で作成しているマニュアルを用いて職員に周知している。緊急時の連絡体制については連絡網を作成し、周知することで整備されている。AEDをセンター内に自主的に設置している。当事者と支援者のために防災イベントを開催した。 コンプライアンスについては、法人本部の責任者の指示のもとに状況把握や改善について取り組んでいる。 職員の労働環境については、休暇の取得や障壁の受診などについて整備されており、視覚障害の職員については職場介助者が配置されている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・研修履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
		清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な環境と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整備、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備について毎日職員による点検が行われている。空調については業者に委託し保守点検が行われている。設備の不備に対しては、早急に対応し、業務やボランティアグループ等の活動に支障がないよう所管課と解決に向けて動く体制が取れている。 管理記録について、適切に整備されている。 清掃業務については清掃業者に委託し、快適な施設環境を維持している。警備業務についてはふれあいプラザ全体で業者に委託しているが、センターの専有部分に関しては職員によって戸締りや火元の確認など、適切に実施されている。 備品管理および消耗品の管理について、毎日開館前に職員による点検が行われている。 					

4. 総合評価

評価点合計	73	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:50点

評価ランク:A→E,標準:C.A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- 盲人図書館がこれで行ってきた録音・点字圖書の貸し出しおよび製作、プライベートサービスといった図書館事業について着実に引き継がれており、安定的な運営が図られている。その一方で、運営法人である日本点字図書館の経験を生かしたサービスの向上に積極的に取り組んでいる。
- 視覚障害者訓練について、盲人図書館の時から利用者の引継ぎに加え、新たな訓練希望者について訓練が実施されている。法人が初めて取り組む事業だったものの、訓練担当に経験者を採用するなどしてサービスの質を確保している。他の訓練担当に関しては、知識や訓練で経験を積みつつ、積極的な研修等への参加により、知識の習得や指導レベルの向上に取り組んでいる。
- 積極的に音訳・点訳のボランティア養成にも取り組み、点訳者で4名、音訳者で10名の修了者を輩出した。
- その他啓蒙等の事業として、センター生つりの開催や読書会、朗読会、音楽コンサート、映画鑑賞会、防災対策セミナーなどを積極的に開催し、文化施設としての存在感を高めている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

利用者アンケートについて、来年度は各事業について実施する体制を整え、サービスに対する満足度の調査を行うこと。調査の結果を踏まえ、より利用者の要望に答えられるようサービスの向上を図り、視覚障害者の自立と社会参加の促進が実現されるよう取り組んでいくこと。

平成 27 年度川崎市視覚障害者情報文化センター事業概要

発行	川崎市視覚障害者情報文化センター
発行日	平成 28 年 3 月 31 日

名称	川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理者	社会福祉法人日本点字図書館
住所	〒210-0026 川崎市川崎区堤根 3 4 - 1 5
電話	(0 4 4) - 2 2 2 - 1 6 1 1
F A X	(0 4 4) - 2 2 2 - 8 1 0 5
メールアドレス	kawasaki-icc@kawasaki-icc.jp
ホームページアドレス	http://www.kawasaki-icc.jp